上富良野高 道ＣＬＡＳＳプロジェクト

地域住民と熟議を

第１回コンソーシアム会議

【旭川発】道ＣＬＡＳＳプロジェクト推進校の上富良野高校（辻芳恵校長）は10月下旬、同校で第1回地域連携コンソーシアム会議を開いた。会場参集とオンラインのハイブリッド型で実施し、地域コーディネーターや学校運営協議会委員をはじめとする構成員ら25人が出席。事業概要や実施計画の説明のほか、1・2年生代表生徒による課題研究発表を通して進ちょく状況を共有し、今後の活動やネットワークづくりに向けて意見を交わした。

道教委が本年度から新たに3ヵ年で進める事業は、地域と学校との連携・協働を整備し、活動を通じて「まち・ひと・しごと」と「学び」とのつながりづくりに貢献することが目的。道北地区では、推進校に上富良野高、連携校に豊富高校、サポート校に旭川農業高校、協力校に富良野高校と富良野緑峰高校が指定された。

地域コーディネーターとして、上富良野町役場企画観光課ジオパーク推進室室長の中村有吾さんと十勝岳ジオパークガイドの国枝孝行さんを配置。前年度に導入した学校運営協議会委員を中心に、上川教育局、上富良野町、町内小・中学校、十勝岳ジオパーク推進協議会、国立大雪青少年交流の家、推進校・連携校、サポート校等で構成されるコンソーシアムを組織した。

学校運営協議会を兼ねて第1回目となるコンソーシアム会議を開催。上川局の白形賢太郎社会教育指導班主査による事業説明のあと、山田真澄教頭が実施計画について説明した。

研究テーマ「地域課題探究型学習プログラムの開発を通じて、本校が目指す資質・能力の育成を図る」「連携・協働プログラムを通じて地域に根ざした学校づくりと地域に貢献する人材育成を図る」のもと、本年度は学校設定科目「地域探究」における課題解決型学習プログラムの立案を中心に教科等横断的な授業改善を推進。評価方法を開発し、次年度以降に向けて実践と検証を図っていくことを伝えた。

つぎに、同校担当者の宮腰幸樹教諭が各学年の取組などから本年度の進ちょく状況を報告。生徒自身や今後の「地域探究」の評価・改善に生かす手立てとして、ルーブリックやポートフォリオを活用していることを紹介し、プロジェクトチームで活用・検証を進めていることなどを伝えた。

地域との連携については、十勝岳ジオパーク推進協議会や国立大雪青少年交流の家の協力・助言を得ながらプログラムを改善しており、今後は町外も含めた「外部への発表の場をつくるため、支援体制を強化していきたい」と語った。

これまでの成果を紹介するため、1・2年生からそれぞれ代表グループが登場。校内で実施した課題研究発表を披露した。

1年生は、十勝岳ジオパーク推進協議会の活動を題材に仮説を立て、持続可能な地域づくりに向けた手立てなどを考察した。

2年生は、町名産の豚サガリを使った地域振興について提案。PRにつながる包装用紙の作成などで消費に貢献し、町の活性化につなげたい考えを示した。

課題研究発表を披露する1年生の代表グループ

研究協議では、今後の活動や地域のネットワークづくりに向けて意見交流。「高校生ならではの目線に感心した。大人のアドバイスを受けながら、よりよい事業にしてほしい」「今のうちから商品開発の難しさを体験して、社会人になったときに戦力になってほしい」との期待の声が上がったほか、「町内の中学生にも刺激になるので、取組をもっとアピールしてほしい」などの意見が出た。

また、「高校生と地域住民による熟議など、互いに本気になって名産品を考えるプロセスが大切」など、効果的な地学協働の取組への助言が寄せられた。